岡大植物研第34号

令和　３年１１月２９日

関 係 機 関 の 長 殿

岡山大学資源植物科学研究所長

平山　隆志［公 印 省 略］

テニュア・トラック助教の公募について（依頼）

拝啓 時下益々御清祥のこととお喜び申し上げます。

当研究所は，植物科学に関する国立大学附置研究所であり，植物遺伝資源およびストレス科学に資する共同利用・共同研究拠点として研究活動を行っております。同時に，岡山大学大学院環境生命科学研究科に所属して教育活動にも携わっています。研究組織として，植物ストレス科学共同研究コア（大気環境ストレスユニット，土壌環境ストレスユニット，環境生物ストレスユニット），大麦・野生植物資源研究センター（遺伝資源ユニット，ゲノム育種ユニット）および次世代作物共同研究コアを設けております。

この度は，土壌環境ストレスユニットの植物ストレス学グループに所属するテニュア・トラック助教１名を次のとおり国際公募いたします。つきましては，関係者各位にお知らせいただくとともに，適任者の応募について宜しくお取り計らいくださいますようお願い申し上げます。また，貴機関以外で適任と思われる方にも，お知らせいただければ幸甚です。

今回の公募では，植物のミネラルストレス耐性機構やミネラル輸送機構等を多方面から解析する能力を有し，当該分野で新たな研究を展開できる方を希望します。また，本公募教員には，岡山大学大学院環境生命科学研究科における研究指導および授業を分担していただきます。本公募では令和４年１０月１日以降できるだけ早い時期に着任できる方を希望します。植物ストレス研究グループには，現在，馬　建鋒教授，山地直樹准教授，三谷奈見季准教授が所属しています。

　本公募教員は，任期(５年間)が適用される助教であり，採用後中間審査（２年半の時点）及び最終審査（４年半の時点）を受けます。テニュア・トラック助教の審査基準（別紙）により，合格の場合は、助教としてテニュアが付与されます。なお不合格の場合は，テニュア・トラック期間の満了日で退職となります。

現在の研究所の研究組織および本公募に関する提出書類と記入要領（本依頼書に添付）等についてはホームページ[www.rib.okayama-u.ac.jp/index-j.html ] をご覧ください。

敬 具

記

１ 提出書類等

（１） 履歴書 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　（様式指定なし） 　１部

（２） 応募者について問合せの出来る方 　　　　　　　　　　　 （別紙様式１） １部

（３） 研究業績一覧表　　　　　　　 （別紙様式２） １部

（４） 外部資金等のリスト （別紙様式３） １部

（５） 現在までの研究の概要とその特色（１５００字以内） （別紙様式４） １部

（６） 岡山大学資源植物科学研究所における研究の抱負（１５００字以内）

 （別紙様式５） １部

（７） 国際活動 （別紙様式６） １部

（８） 所属学会 （別紙様式７） １部

（９） 審査期間におけるインパクトファクターの合計 （別紙様式８）１部

２ 提出（送付）期限

令和４年 ２月２８日（月）（必着）

３ 書類送付先および事務連絡先

岡山大学資源植物科学研究所長　平山隆志

ＴＥＬ（０８６）４２４－１６６１ 　ＦＡＸ（０８６）４３４－１２４９

Emailアドレス：see1201@adm.okayama-u.ac.jp

応募書類はPDFの添付書類としてメールで送付してください（最大ファイル容量１０ MB）。応募書類は１つのPDFにまとめ、メールの件名に「植物ストレス学グループ助教選考」と記入ください。

応募書類により取得する個人情報は，採用者の選考および採用後の人事・給与・福利関係に必要な手続き若しくは調査統計を行う目的で使用するものであり，この目的以外で利用又は提供することはありません。

なお，採用に至らなかった方の応募書類は，当該採用選考業務終了後，適切な方法にて廃棄いたします。

この応募書類に関する個人情報の取扱い等については，当研究所庶務担当にお問合せください。

以 上

４　その他

（１）本公募は書類選考を行ったうえ、面接をさせていただくことがあります。

（２） 給与は，年俸制となります。次のＵＲＬより「国立大学法人岡山大学職員就業規則」，「国立大学法人岡山大学年俸制適用職員給与規則」等をご参照ください。

http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/kisoku.html

（３）岡山大学では，男女共同参画を推進しています。

記 入 要 領

１ 履歴書

市販の履歴書ファイル等をお使いください。

２ 応募者について問合せの出来る方（様式１）

本研究所が問合せ可能な方２名について，氏名，所属，連絡先およびEmailアドレスを記入してください。

３研究業績一覧表（様式２）

（１） 著書と学術研究論文を年代順に記入してください。

業績は著書，原著論文，その他（総説，取得特許等）に分類し番号を付けて記入してください。ただし，報告書等は含めないでください。印刷中の論文は，その証拠になる書類（コピー可）を提出してください。

（２） 共著の場合は，本人の氏名を含め，著者全員の氏名を論文に記載された順に記入してください。

（３） 主要論文５編を選び，その番号を○で囲んでください。

４ 外部資金等のリスト（２０１６年から）（様式３）

（１） 「交付元」の欄には，科学研究費補助金（種目も明記のこと）等と記入してください。

（２） 「代表・分担」の欄には，代表・分担の別を記入し，分担の場合は代表者名をカッコで囲んで記入してください。

（３） 可能な限り実際の配分額を記入してください。

５ 現在までの研究の概要とその特色（様式４）

（１） １５００字以内で作成してください。

（２） 研究内容がわかるようにキーワードになる部分にアンダーラインを付してください。

（３） 引用された主要論文については，各文章末に研究業績一覧表に示された論文番号を（ ）内に列記してください。

６ 岡山大学資源植物科学研究所における研究の抱負（様式５）

（１） １５００字以内で作成してください。

（２） 研究を展開するための具体的な研究計画・方法と，予想される研究成果および学術的・社会的インパクトを含め，研究の抱負を記入してください。

７ 国際活動（２０１６年から）（様式６）

国際学会，シンポジウム等における発表と運営への参加経験，国際共同研究への参加と成果等を記入してください。

８ 所属学会（様式７）

９ 審査期間におけるインパクトファクターの合計 （様式８）

最終審査までに達成可能なインパクトファクターの総数，およびその根拠（例えば，どのような雑誌への論文投稿を目指すのかなど）について記入してください。審査基準については別紙を参照ください。

１０　その他

（１） 提出書類は１つのPDFにまとめて送付してください(A4版、ページ数は問いません)。

様式１ 応募者について問合せの出来る方

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　応募者氏名

 氏　　名 所　　属 連　　絡　　先（住所，電話，Email）

様式２　研究業績一覧表（著書，原著論文，その他）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　応募者氏名

　　番号，著者名，発表論文，著書名，雑誌名，巻頁年の順に記載してください。

様式３　外部資金等のリスト（２０１６年から）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（枠を設けて書く必要はありません）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　応募者氏名

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 年　度 | 交　付　元 | 代　表・分　担（氏　名） | 研　　究　　テ　　ー　　マ |
| 2016～2018年度（３年間）2017年度（１年間）2016～2017年度（２年間）2019年度（１年間） | 文部科学省科学研究費補助金（一般C）（配分額）農水省（配分額）○○○○庁○○費（配分額）（財）日本科学協会○○○○研究助成（配分額） | 代　　　表分　　　担（代表○○○）代　　　表代　　　表 | ○○○○の××××に関する研究◎◎◎◎◎◎の解析××××の○○○○に関する研究△△△△△△△△に関する研究 |

様式４　現在までの研究の概要とその特色（１５００字以内）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　応募者氏名

様式５　岡山大学資源植物科学研究所における研究の抱負（１５００字以内）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　応募者氏名

様式６　国際活動（２０１６年から）（各項目に番号をつけて記載してください。）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　応募者氏名

様式７　所属学会　　　　　　　　　　　　　　　　　応募者氏名

様式８　審査期間におけるインパクトファクターの合計

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　応募者氏名

(別紙)

テニュア・トラック助教のテニュア審査基準

2021.11.19改正

令和２年度以降の公募により採用されたテニュア・トラック助教については，次の観点で審査する。

|  |
| --- |
| １）　研究能力　　□植物遺伝資源・ストレス科学に関連する研究を，研究所職員として将来発展させうること。　　□テニュア・トラック（以下「TT」とする。）期間内，ファーストオーサーまたはコレスポンディングオーサーの査読付原著論文が掲載された雑誌のインパクトファクターの合計は，応募時に自己申告した値（※）以上に達成すること。　　□TT期間内に国際学会において本人が発表を行うこと。　　□TT期間内に所内あるいは所外で開催される学会・シンポジウム等の研究集会においてオーガナイザーを務めること。 |
| ２）　教育担当能力　　□TT期間内に大学院生向けの講義，演習等，あるいは大学院生の学位論文指導で教育の経験を１件以上有すること。　　□TT期間内に研究所が推進する国際連携の取り組みにおいて、人材育成に積極的に貢献すること（※※）。 □審査時に博士前期課程の指導教員としての担当能力を有すること。 |
| ３）　資金獲得状況　　□　TT期間内に，本人が代表者として競争的外部資金に応募し，獲得すること。 |
| ４）　その他　　□ TT期間内に研究所の運営に積極的に参加し，研究所の発展に貢献する具体的な提案を行うこと。 |
|

 ※TT助教として赴任してから最終審査時までに蓄積可能な合計インパクトファクターを，応募時に自己申告する。（１０以上が望ましい。）

※※セミナーの講師、研究指導、インターンシップの受け入れ等が含まれる。